

使役動詞の基本的な使い方を学ぼう

使役の意味を表す動詞、let, make, have, get を使って『誰かに何かをさせる・してもらう』などの表現方法を簡単に説明します。これら let/make/have/get にはそれぞれ異なったニュアンスや使い方がありますので、それも含めて下記のように代表的な定文を簡単にまとめました。

★ let を用いた場合は、”let + 人(目的語) + 原形動詞” となり、意味は『人に～させる・～する事を許可する』です。自由に何かをさせる容認のニュアンスを持ちます。

- I will let you go home. (あなたを家に帰らせてあげましょう。)
- Please let me know if you have questions. (質問があったら知らせてください。)
- Please let me introduce myself. (自己紹介させて下さい。)
- let me do it. (私にやらせて下さい。)

★ make を用いた場合は、”make + 人(目的語) + 原形動詞” となり、意味は『人に強制的に～させる』です。何か強いる強制のニュアンスを持ちます。(あくまでもニュアンスです)

- He made me go out of the room. (彼は私を部屋から追い出した。)

次に、make + 人 + 形容詞” で『人を～(の状態)にする』の意味もあります。例えば、

- The news made us very happy. (そのニュースは私たちをととても幸せな気持ちにした。)

★ have を用いた場合は、”have + 人(目的語) + 原形動詞” となり、意味は義務や仕事として『人に～させる・～してもらう』です。義務・仕事として納得のニュアンスを持ちます。

- I will have her do this work. (私は彼女にこの仕事をしてもらうつもりです。)
- I had Kimura-san fix my PC. (私は木村さんにパソコンを修理してもらった。)

★ get を用いた場合は、”get + 人(目的語) + to + 原形動詞” となり、説得や依頼によって『人に～させる・～してもらう』になります。Haveと似ていますがhaveよりも依頼・お願いのニュアンスを持ちます。

- I will get Kimura-san to fix your PC. (あなたのPCの修理を木村さんに頼んであげましょう。)
- I got my manager to let me go to a dentist. (上司に頼んで歯医者に行かせてもらった。)

使役動詞の基本的な使い方 - まとめ

- ★ let + 人(目的語) + 動詞の原形：人に～する事を許す・許可する (容認)
- ★ make + 人(目的語) + 動詞の原形：人に強制的に～させる (強制)
- ★ make + 人(目的語) + 形容詞：人を～ (の状態)にする
- ★ have + 人(目的語) + 動詞の原形：人に義務や仕事として～させる (義務・納得)
- ★ get + 人(目的語) + to + 動詞の原形：人に説得や依頼によって～させる・～してもらう (依頼)

ここまでは目的語が人の場合の例文のみを紹介しましたが、目的語が「もの(人以外)」に変わっても文章の構成やその文章の意味するところが変わりはありません。例えば・・・

- You should let the beetle go back to the forest. そのカブトムシを森に返してあげるべきだよ。
- He made the issue more complicated. 彼がその問題をより複雑にした。
- He will have this team take care of the issue. 彼はこのチームにその問題を解決させるつもりだ。
- You should get more reliable companies to do this.

あなたはもっと信頼できる会社にこれをしてもらうべきだ。

次に「**have/get + もの(目的語) + 過去分詞**」の形を紹介します。

この形は目的語が人ではなく「もの」で、その目的語である「もの」に何かをさせるのではなく、「誰かにその「もの」をある状態にしてもらおう」という意味になります。言葉で説明するより例文を見ていただければもっと簡単に理解していただけたと思います。

例1) I had my hair cut. 髪を切った。(髪を切ってもらった。)

例2) I got my hair cut. 髪を切った。(髪を切ってもらった。)

日本語では「髪を切った」とまるで自分で切ったように言いますが実際は美容院や床屋で切ってもらってるわけですので英語ではこのように言います。

自分で切った場合のみ "I cut my hair."

例3) I will have my car repaired tomorrow. 明日、車を修理してもらおうつもりだ。

例4) I will get my car repaired tomorrow. 明日、車を修理してもらおうつもりだ。

これら例3)と4)の文章も「修理屋さんに頼んで」とは言っていないが誰かに頼んで修理してもらおうつもりだという意味になります。

自分で修理するつもりなら "I will repair my car."となります

このように、使役動詞の"have"と"get"には、上記の例1)~4)のような「have/get + もの(目的語) + 過去分詞」と1ページ目で説明したような使い方があります。その違いは理解できましたか？その違いを例1)の文章を使ってもう一度確認しておきましょう。

- 誰に髪を切ってもらったかはどうでもよくて、ただ単に「髪を切った」と言うなら

"I got my hair cut." (get + もの(目的語) + 過去分詞)

- 「有名な美容師に髪を切ってもらった」と伝えたいなら

"I got a famous hairstylist to cut my hair." (get + 人(目的語) + to + 動詞の原形)

さらにもう一例・・・

- 「出来るだけ早く車の修理をしてもらおう」と言うなら

"I will get my car repaired as soon as possible." (get + もの(目的語) + 過去分詞)

- 「いつもの修理工場に出来るだけ早く車の修理をしてもらおう」と言うなら

"I will get my usual car garage to repair my car as soon as possible."

(get + 人(目的語) + to + 動詞の原形)

以上です